

地域医療連携の現状報告

地域医療連携課 須和部はるか 山地 啓子
原田 尚宏 菱井 大輔
松下 統代

I. はじめに

病院は入院や救急医療に重点を置き、診療所は地域医療の窓口としての機能を分担する「医療機関の機能分担」という国の方針が打ち出され医療連携は大きく発展してきた。地域医療連携課は、当院と地域の診療所や医療機関との円滑な連携を行う役目を担い、平成11年4月1日に設立された。機能分担による、より質の高い医療を効率的に患者へ提供していくことを目的としている。

地域住民や診療所とのより密な連携を目指す当院の医療連携の現状と地域医療連携課の取り組みを中心に報告する。

II. 医療連携の現状

平成22・23年度の入院・外来患者を対象とし、入院患者の経路、地区別構成、紹介元診療所の比較を行った。

平成22年度の入院患者経路の内訳は、救急入院36%、紹介入院39%、その他25%である。紹介患者の地域別割合は、市内84%、市外・県外16%である。

平成23年度の入院患者経路の内訳は、救急入院34%、紹介入院41%、その他25%である。紹介患者の地域別割合は、市内86%、市外・県外14%である。

平成22・23年度の紹介患者は、初診患者58%、初診患者以外42%である。紹介元の比較では、パートナー静岡診療所62%、パートナー以外の静岡診療所

10%、清水診療所5%、その他7%、病院・施設16%である。

III. 地域医療連携課の取り組み

地域医療連携課の業務は多岐にわたるが、中でも予約業務や問い合わせへの対応など診療所と直接やりとりを行う業務は重要である。「先方を待たせない」ことが信頼へ、ひいては紹介とつながると考え、迅速な対応を行うことに力を入れている。特に予約業務では、10分以内に予約手続き完了の返答を行うことを目標としている。

そのための対策として、各診療科医師に「紹介患者の予約可能な時間枠」を依頼し、予約入力画面に当課職員が直接入力できる体制を整えた。

IV. まとめ

当院の入院患者の内、救急入院・紹介入院が75%を占めている。また、紹介患者の内訳をみると、市内の患者が約85%、初診患者は58%を占めている。地域医療連携課の取り組みとしては、1分1秒でも早い返答ができるよう業務改善をはかった。地域支援病院として円滑に業務を進めていくためには、地域住民や診療所からの信頼が不可欠である。その信頼を得るために、今後も院内・院外を問わず連携強化を図っていききたい。